



小林市観光推進協議会

よしどめ たかし
吉留 高志 会長

小林市には、霧島や九州山地の大自然の恩恵である「豊富で良質な水」と「肥沃な土地から生み出される農畜産物」、また同時に長く刻まれてきた「歴史、伝統、文化」など多くの観光資源があります。

DMOの目標は、これらの観光資源を生かし、「稼ぐ」ことです。今までは、さまざまな事業所や団体が、それぞれイベントや商品開発などを企画し、実施してきました。そして、イベント後の分析も不足していた現状があります。

事業所が行っているイベントや商品を分析し、連携させることで、それらを売り出すための手法を計画的に実践することができそうです。そうすることで、より大きな経済効果を生み出していくと考えています。そのためには、市民一人一人が当事者意識を持たなければなりません。観光を中心とした地域活性化に市民総力戦で取り組んでいきましょう。

今ある観光資源を生かし、より稼げる手法を市民総力戦で連携し実践していく

観光推進協議会によるDMO体制を構築

今回、設立された「小林市観光推進協議会（観光DMO体制）」は、観光協会、こばやし農業協同組合、小林商工会議所、すぎ商工会、野尻町商工会、宮崎銀行、小林まちづくり株式会社（以下、まち会社）の8団体で構成されており、事務局はまち会社が担うこと

になりました。そのため、まち会社は新たに観光推進部を設け、観光による経済活性化、すなわち観光の産業化の中心的な実践組織として活動していきます。地域の有志により設立されたまち会社が事務局を担うことで、関係者の意思が集がスムーズに図れるほか、中心市街地の活性化と観光推進を一体的に進められることが期待されています。

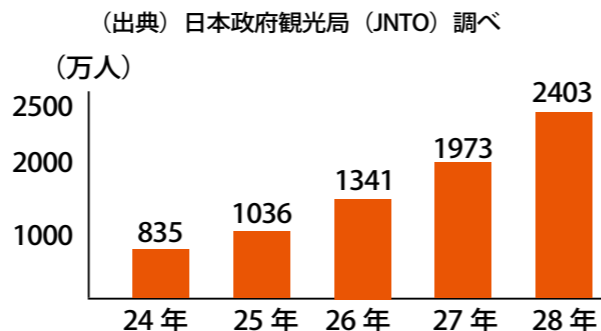
また、観光推進部の部長には、宮崎銀行からの出向行員（課長職・常勤）が就任。銀行のノウハウを生かし、持続的かつスピーディな事業立ち上げを行います。まち会社のような中心市街地活性化法人が、DMOの機能を担うケースは全国でも数例しかなく先駆的な取り組み。今後の活動が目ざれています。

表1) 観光交流人口の経済効果(2013年)

(出典) 観光に関する取り組みについて
平成26年11月18日 国土交通省観光庁

	1人あたりの消費額
定住	124万円/年間
訪日外国人	13万7千円/回
国内旅行(宿泊)	4万8千円/回
国内旅行(日帰り)	1万5千円/回

表2) 過去5年間の訪日外国人の推移



特集 観光のマーケティング・マネジメントを行うDMO体制始動

観光で稼ぐ。

DMO (「Destination Management & Marketing Organization) とは、観光で稼ぐためにマーケティングとマネジメントを行う組織です。4月17日、「小林市観光推進協議会」が設立され、市の観光のDMO体制が始動。これは地方創生の一環で、DMO体制により、「観光で稼ぐ」ことで、雇用創出や地域活性化を目指すことが目的です。

今月号では、小林市のDMO体制について紹介します。



2020年に向けた観光地づくりが課題

急速な人口減少により地域経済が縮小していくなかで、現在、全国的にそれらに歯止めをかけるために、「観光」にスポットがあてられています。観光庁によると、日本の定住人口1人あたりの年間消費額は124万円、旅行者の消費に換算すると外国人旅行者9人分、国内旅行者では宿泊で26人分、日帰り83人分とされています(表1参照)。

また、訪日外国人も過去5年間で800万人から2400万人に約3倍増加しています(表2参照)。さらに、2019年にはラグビーワールドカップ、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、外国人観光客は、今後増加することが見込まれています。

そのため、2020年に向けた観光地づくりが全国的な課題となっています。

観光で稼ぐ力をつけ雇用創出・地域活性化

このような中で、市では、一昨年策定した、てななど総合戦略の中で「観光」での経済の活性化を掲げ、その手段としてDMO体制という観光推進体制の構築を定めています。

DMOとは、「稼ぐ観光」をマネジメントする法人であり、観光関連データの活用や飲食店、農林業、商工業者などと連携し、観光戦略の立案や事業の企画などを行う組織です。

これまで本市の観光といえば、訪れた人に対して観光スポットやイベントを紹介するといった「待ち」のスタンスでした。

DMO体制が構築されたことで、地域の観光資源の発掘や磨き上げが図られます。さらに、国内外の観光客に向け、積極的にツアーをはじめとする各種観光企画を売り出し、市内での観光による経済活動を促すことが期待されています。

INTERVIEW 事務局に聴きました

宮崎銀行から、4月に小林まちづくり(株)に出向行員として参りました。

観光事業を民間がやる以上は、利益を追求していかねければなりません。しかし、まだその土台はできあがっていません。

まずは、大きな利益ではなく、「10万円の予算の企画で、1万円の利益を生む」くらいでもいいので、小さな成功事例を作っていければと思っています。

それを実践していくためには皆さんの協力やアイデアが必要です。私自身も

数字として結果を残していくことは、大変難しいことだと思います。その中でも「観光は楽しいもの」だという気持ちを忘れず、旅行者も満足、事業所も満足、企画する人も満足できるように体制を整えていきます。



小林まちづくり(株)
観光推進部長
出向行員 (宮崎銀行)
ごとう ゆきお
後藤 幸男 さん

民間のノウハウを生かして数字として結果を出すための体制を整えていきます

INTERVIEW 市民に聴きました

趣味が写真撮影で、地域の自然や人、食べ物、行事などをよく撮影します。それを、「みんなで共有したい」という気持ちで、インターネットでほぼ毎日公開しています。

地元においても、実は知らないことはとても多いと思います。それを自分が発見したり、人に教えてもらったりしたときは、とてもワクワクします。その気持ち共有できたらすごく楽しいんじゃないかって思っています。

2月に開催されたアイデアコンテストも、もともと自分が「これは楽しい。みんなと一緒にしたい」というものを出しました。人と人とのつながりはとても大切です。観光は、来る人も迎える人も楽しむことが大切だと思います。小さなワクワクでもいいのでみんなで協力して楽しみながらやっていくべきだと思います。そして、協力して成し遂げた後には、さらにみんなで笑い合えます。

そんな人間関係を作りながら、取り組めたらとても有意義だと思います。



東方在住
みんなの観光アイデア
コンテスト応募者
たなか ふうま
田中 風馬 さん

ワクワクすることをみんなで共有して小林をもっと盛り上げていきたい

小林市観光推進協議会の「基本理念」と「重要なテーマ」

基本理念

霧島連山・九州中央山地に抱かれた自然、大地、豊かな水、有形・無形の文化・歴史遺産を感謝の念や保護の意識、関係者間の相互理解をもって活かす。それにより仕事を創出し所得を増やすことで暮らしや文化の維持・向上に貢献する。

重要なテーマ

(1) 市民の学び

持続的かつ自律的な観光地を目指すためには、市民による観光まちづくりが必須である。さまざまな場・機会自然・歴史文化・食(農畜産業)について理解を深める。

(2) 市内外での連携

取り組みが個別団体・事業者単位でなく、より市内や世界の知見・実行者と連携することにより、新たな価値創造ビジネスチャンス拡大につなげる。

(3) 稼ぐ意識化

これまで優れた観光・物産資源がありながらも、十分な方策なく安価な販売・サービス提供にとどまり経済振興に反映していない。上質な観光地・上質な物産販売に向け「稼ぐための仕組みづくり」にむけた「稼ぐ意識化」を醸成する。

(4) 食

小林市は農畜産業・林業のまちであり、これらの活性化による経済インパクトは高い。また全国・世界からも高い評価をいただけるものもあり、自然・歴史文化分野においても稼ぐためには「食」は切り離せない。

(5) 観光上のインフラ

観光客(外国人含む)の誘客や物産販促には、「情報・交通・宿泊滞在・商流」の利便性や快適性の提供にむけた整備と充実が必要である。



【事例】観光ツアーを企画。「A列車で行こう」



1



2

ツアーの結果を分析し、今後の参考に

5月11日、12日にJR九州主催の「A列車で行こう」のツアーをDMOで企画しました。すき酒造、ままこ滝、東方チョウザメ養殖場、百笑村、生駒高原の5カ所を巡るコースを設定。2日間で160人が訪れ、小林の自然や景色、食を堪能していました。

今回の企画はDMO体制の構築後、初の取り組みです。各事業所の協力で開催することができました。この企画を一過性のもの終わらせないために、購入されたものや反響の大きかったものなどの分析を行い、今後もさまざまなツアーを企画していきます。



3

Photo 1 すき酒造で杜氏の説明を聴く参加者ら。2 百笑村で農畜産物や加工品などを購入。3 昼食には、新しく開発されたチョウザメにぎり弁当を提供しました